

---

第1回 日野市介護保険運営協議会  
第1回 日野市地域包括支援センター運営協議会  
第1回 日野市在宅高齢者療養推進協議会  
第1回 日野市地域密着型サービス運営委員会

要 点 録

---

[日 時] 令和4年7月5日(火) 18:30~20:30  
[場 所] 日野市役所5階 504会議室(リモート併用開催)  
[内 容]

《開 会》

副市長あいさつ

《介護保険運営協議会》

【議事】(1) 第5期日野市高齢者福祉総合計画のための基礎調査項目の検討について

【議事】(2) 第4期高齢者福祉総合計画の進行管理について

(令和3年度実績、令和4年度実施計画)

《地域包括支援センター運営協議会》

議題なし

《在宅高齢者療養推進協議会》

【報告】(3) 日野市在宅療養体制構築のための基本方針の令和3年度実績及び

令和4年度予定について

《地域密着型サービス運営委員会》

議題なし

【資 料】

議事次第

委員名簿(令和4年4月現在)

事務局名簿(令和4年6月現在)

【資料1-①】第5期日野市高齢者福祉総合計画のための基礎項目の検討について

【資料1-②】第4期日野市高齢者福祉総合計画 高齢者実態調査項目一覧(自立高齢者)

【資料2-①】第4期日野市高齢者福祉総合計画進行管理表(令和3年度実績)

【資料2-②】第4期日野市高齢者福祉総合計画進行管理表(令和4年度実施計画)

【資料3-①】「日野市在宅療養体制構築のための基本方針」進行管理表

【資料3-②】日野市在宅療養体制構築のための基本方針の進捗状況(令和3年度実績)

【補足資料】

【資料3-③】在宅療養支援課の今後の動き

別 添:日野市在宅療養ガイドブック わたしの思いをつなぐエンディングノート(簡略版)

[議事要旨]

《開 会》

- ・委員数 17人中16名出席。半数以上の出席のため会議成立。  
(事務局として保険年金課長 出席)
- ・会議の内容について正確を期するため録音をさせていただく。
- ・議事録については要点録として公表させていただく。

《介護保険運営協議会》

(1) 第5期日野市高齢者福祉総合計画のための基礎調査項目の検討について(議事)

～事務局より説明～

～質疑応答～

会 長：行政が行う調査。質問項目をダイエットすることに加え、設問を短め・簡潔にし回答率を上げる工夫が必要である。

前回調査では、サービス提供事業者向け調査の回収率が低かった。インターネットでの調査に変われば回収率も変わるのではないか。

調査質問項目に関わらず、どういう調査プロセスを踏んでいくのかなどについても併せてご意見をいただきたい。

委 員：【資料 1-②】調査項目「エンディングノートや終活について」相談しましたか?とあるが、事業について周知はされているのか。

事務局：6月1日号広報ひのに掲載。そのほか、図書館での企画展や七生支所などにも掲示を行った。エンディングノートには「人生会議」をキーワードとして、もしもの時に備えて話し合うことも大事であると伝えている。

委 員：「相談したか?」の設問のほか、「知っているのか」の項目もあれば周知の統計に使用できるのではないか。

会 長：「(事業の)周知の把握」なのか、「(知っている人へ)どこまでその内容を知っているのか」を問うのか、今回の調査の結果をどう計画に生かすのか。

調査項目のスリム化を目指す中でどこに力点を置くのが重要。

委 員：調査項目を増やさずとも回答の項目を調整することで集計できるのではないか。

委 員：すでに周知がされている事業については、項目から削除ができるのではないか。

より(事業の)周知度を高めたいというのであれば、残していく。

回答方法については、送られてくる調査票が多だけで躊躇する場合があるので、インターネットとの併用はできないのか。前回調査の際、要望は出ているのか。

事務局：前回、市民からのインターネットでの回答の要望はなかった。

会 長：インターネットでの回答や紙面との併用実施、併用による二重回答を防ぐ方法など、組み立てに関するコストが増えることが考えられる。

事務局：市民向け調査については、インターネットでの調査は未検討であったため、アンケート案を委員宛送付するまでに検討し回答したい。

委 員：調査の過程で、ヒアリング調査は実施するのか。

会 長：計画策定のための基礎項目調査、総合計画に結びつけるものの中ではヒアリングは行っていない。

- 委員：要介護者への調査について、独居や老々介護の世帯では、市からの郵便物を見ないことがある。調査票配布時に、ケアマネや包括へ情報提供し、支援の手も必要ではないか。
- 会長：調査票への回答は自由意志であるので、ケアマネ、包括等の方へはサポートのお願いが良いのでは。時期が来たら、可能な限りでのサポートの依頼含め情報提供を。
- 委員：調査時期には、市から包括へ連絡が来ている。訪問時には調査票が届いているのか、見ている。
- 今回質問項目を精査するにあたり、第5期福祉総合計画は、どのような方向性で策定するのか、方針が見えないと質問の項目の精査が難しい。調査結果で方向性を決めるとも思うが、現段階である程度の方向性を示してほしい。
- 本調査は、実態が分かり大変有意義なものであるもので、回答率を上げて皆さんの意見を取り入れた計画になればよい。市民へのヒアリングはこの規模だと難しいと思われるので、そこはケアマネや包括などから聞き取り、計画に反映できればよいのでは。
- 事務局：アンケート案を委員宛送付する際、ある程度の方向性を示せればと考えている。
- 委員：厚生労働省の必須項目は、変更の予定があるか。必須項目は変更・削除はできるのか。
- 事務局：厚生労働省から必須項目変更の通知は来ていない。必須項目の変更・削除はできない。
- 委員：前回の調査項目で「シルバー人材センターの会員を増やす」などの目的の質問があったが、調査項目案を送付する際、目的の達成ができたのかも示してもらえるのか。
- 事務局：事務局で調査項目を精査した際は、精査した理由を示したい。
- 会長：調査項目を精査していくうえで、調査の設計の柱の確認も必要である。
- 委員：市民の間では、補聴器利用の話が挙がっている。3月の市議会でも補聴器購入へ助成の話があった。本調査では補聴器についての質問項目はあるのか。
- 事務局：今までは補聴器に関する質問項目はなかった。今回の調査項目に補聴器に関する項目を入れるか否かは事務局でも検討中である。
- 会長：事業開始に向けた周知度合いをはかる目的で（新規事業についての設問を）調査項目に入れるのは政策的判断として可能であると考えますが、調査項目を減らす意向がある中で今回の基礎調査において項目を追加するのは、事務局において今一度精査し原案を示してほしい。事業を周知したいことと基礎調査で知りたいことは必ずしも一致しない。
- 委員：調査の回収率が低い中、介護保険更新申請書類に同封することは可能か。  
更新申請書は誰かが必ず開封するので、更新申請書に同封されていれば気づき、調査回答に役にたてるのではないか。
- 事務局：ご意見として受け、同封できるかについて検討する。
- 会長：微妙な問題。更新申請書は、介護保険更新を目的としたもの、調査回答は任意であるため、同封すると強制力を感じさせてしまう。同封するかについては検討必要である。  
色々意見が出た。事務局は整理をお願いしたい。  
調査項目を精査するにあたり、調査目的の明確化、柱の設計、重点項目の明記、調査方法（インターネット併用回答等）の検討。  
回収率を上げるため、調査時期において包括、ケアマネへの調査回答の協力依頼を例年通り行うこと。
- 委員：訪問介護の人材不足について、ヘルパーがどのくらい市内で働いているのか調査いた

だいた。その際、ヘルパー一人あたりの1日の従事時間の調査がなかった。

従事時間の調査がないと充足しているのかが分からない。今回の調査において、訪問介護事業者にだけ設問を追加することは可能か。

事務局：検討課題として預かりたい。訪問介護事業者に対し調査項目を追加することは可能かと考える。

会 長：資料に記載のスケジュールに沿ってアンケート項目に関するご意見をいただきたい。

## (2) 第4期日野市高齢者福祉総合計画の進行管理について（議事）

～事務局より説明～

～質疑応答～

委 員：認知症サポーター養成講座は、開始してから17年目となる。計画の人数で行けば日野市民が2回ずつ受けている計算となる。受講数が減少している原因は、2回目は受けなくてよいと考えているのでは。目標設定と続ける根拠は何か。

事務局：企業との連携も考えており、企業に対し実施をしていきたいと考えている。

委 員：企業と子供達を対象に約2万人と考えているのか。

事務局：ご質問のとおり考えている。

委 員：介護人材の資格取得の助成は、実務者研修を受ける費用の助成もしているのか。

事務局：介護職初任者や介護福祉士・介護支援専門員の研修にかかる、テキスト代や実習等を含んだ受講料への助成制度である。

委 員：実務者研修は資格要件のためののだと思うが、介護福祉士とあるのは何の研修か。登録費用を補助しているのか。国家試験を受けるための助成か。実務者研修は、資格取得の部類にはいるのか。

事務局：実務や受験するための研修と位置付けている。

委 員：東京都でも同様の補助をしていると思うが、同じなのか。

事務局：日野市独自の制度である。

委 員：第4期計画の進行については、コロナの影響を受けている。目標どおりに行っていない。市民は、事業再開を渴望している。再開される活動に対し関心がある。この渴望しているタイミングは逃したくない。ただ、まだ感染症に対し不安視する声もあり、事業を主催する側も、歌や食事はまだだと考える。その中で感染症予防に気を付けながら再開できる事業は進める必要があると考えている。

会 長：第4期の計画進行については、ある程度イレギュラーにならざるを得ない。

コロナ禍の前に策定した計画をコロナ禍でどう進めるのか、難しいのは2022年度をどう進めて行くのかである。

積極的参加を希望する方、そうでない方の2極化している状況の中、どう進行管理を行うのかが問われている。

委 員：現在もコロナの影響は進行中で陽性者数もまた増えてきている。事業には、集まって行わないとできないものもある。WEBでできる部分と、対面こそ重要な地区活動などに分かれてきている。この状況も計画に反映できればと考える。

委 員：介護予防の活動をしている団体の活動に3か所ほど参加している。共通していることは、コロナの影響を受けていて活動が制限されていたり、団体の高齢化。

指導者や講師が高齢となり活動を辞めようか考えている。  
フレイル予防、介護予防の事業運営が高齢化、コロナ禍で厳しい状況である。  
活動団体のPR、周知も必要。

#### 《在宅高齢者療養推進協議会》

(3) 日野市在宅療養体制構築のための基本方針の令和3年度実績及び令和4年度予定について  
(報告)

～事務局より説明～

～質疑応答～

委員：災害医療コーディネーターの役も担っている。コロナ禍において、避難所開設も大変であった。住宅状況も安定した中、対策も変わってきている。より具体的な事案を念頭に置きながら訓練を進めている。水害時の堤防決壊規模や避難所開設場所など、具体的に災害想定を立て、焦点を当てないと訓練自体が全部無駄になる。

直近の台風災害時以降、より市職員は災害に対して意識が高くなった。河川の護岸工事も進み市民の方も安心して暮らして町になったと言える。

委員：基本的方向性2「レスパイト入院制度の拡充」について、制度開始から10年以上経過している。コロナ禍において利用率が低下しているのは分かったが、コロナ禍以前の利用率はどのくらいか。また、この制度開始時、日野市立病院ではレスパイト目的では受けないと言われていた。現状を伺いたい。

事務局：コロナ禍前は6割の利用率

委員：開始当初は2床で3割行くかであった。1週間の縛りがあった。日野市立病院はレスパイトで病床使用する病院ではない。病床利用率を上げることがいいことなのか。本事業に対する補助金をどう考えるかである。

委員：一時入院支援事業は大変大事な事業と考える。日野市立病院は急性期患者対応病院のため、急性期患者を看ている方が対象なのかと思う。支援を受ける方は急性期の方とは限らないので、色々なニーズに対応できる体制が必要では。

委員：日野市立病院以外にも対応できる病院はあり、対応が早い。以前とは変わってきている。日野市立病院に病床が必要かどうか。皆で見直しが必要。

委員：ほかの病院でまかなえているから利用率が低いのか。本当に必要な枠なのか。

事務局：日野市立病院は、緊急の対応が可能。一定の治療が必要、看護師のケアが必要な方を対象にレスパイト対象者も受け入れをしている。

[その他全体を通しての質疑について]

委員(健康福祉部長)：健康福祉部では組織の見直しを検討している。

この数年間のコロナ禍や災害対応、様々な福祉のテーマが発生している中、組織で横断的に対応しなければならない課題も出てきている。

できるところから行っていきたいと考え検討している。

適宜紹介していきたいと考えているのでご承知おきいただきたい。

[閉会]